

## 会長挨拶(2009年6月9日 懇親会)



会長 木瀬照雄

ただいまご紹介いただきました木瀬でございます。

本日は、公務ご多用のところ、経済産業省の細野製造産業局長、国土交通省住宅局の坂本住宅生産課長はじめ、両省幹部の方々、並びに当協会に関係の深い諸団体、報道関係など多くの方々にご参会いただき、まことに有難うございます。

また、協会会員の皆様には先ほどの総会に引き続きご出席いただき有難うございます。日頃から、協会運営にご尽力賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

私からのご挨拶の前に、先ほどの平成21年度通常総会において、事業計画、予算など全ての議案が承認されましたことを、皆さまにご報告申し上げます。

さて、前任の吉田会長ご退任後、昨年より、会長の職を仰せつかり、副会長の皆様、さらには関係各位のご支援・ご協力を賜りながら新たな執行体制のもと、微力ながら尽くしてまいりました。

ご承知のように、この間のわが国の経済は、世界規模での金融危機の深刻化により、景況感は悪化しつつ推移してまいりました。建材・住宅設備業界におきましても、景気減速の影響から建築着工のみならず、リフォーム需要も低調に推移するなど、かつてない大変厳しい環境にあります。

このような環境において、協会として期待される役割、つまり、「社会的プレゼンスを高め、業界の中核機関となることを目指す」ために、昨年は、大きく4つのことに取組んでまいりました。総会ご出席の方には、繰り返しになりますが、まずは、簡単にそのご報告をさせていただきます。

ひとつは、財政基盤の安定化についてですが、事業収益の改善や経費の削減等を実施し、これまでのところ順調に推移してきております。

新しい情報提供サービスについては、利用者視点を重視しながら検討を進め、今年の秋からいよいよスタートする予定です。後ほど皆様に詳しくご紹介させていただきます。

環境配慮や安心・安全については、幅広い企業・団体が集まる協会のメリットを生かし、建材・住宅設備の省エネルギーに関して、消費者に有益な情報の提供や、建材・住宅設備の自主表示制度の普及に努めてまいりました。

4つめに、協会が会員企業・団体にとって魅力ある場であるかを、常に問いかけながら運営してまいりました。行政も交えた「政策懇談会」を開催し、かつて経験したことのない経済環境において、協会運営とはどうあるべきかという共通認識をもって議論してまいりました。

今年度については、昨年掲げさせていただいた基本方針を進化させ、取り組んでまいります。特に、財政基盤の安定化については、引き続き事業収益の改善や支出の圧縮を強力に推し進め、すでに施行されている新公益法人制度に協会としていかに対応するべきかの検討を開始してまいります。

情報提供サービスについては、利用者視点で使いやすいサービスの提供を第一にスタートいたします。メーカー側にとってもメリットの多いシステムに進化させていきたいと思っておりますので、ここにおられます多くの会員の皆様にご参加いただきたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。

環境と安全・安心につきましては、昨年度の取組みを踏襲するとともに、新たに浴室ユニットの省エネ性能表示の検討を開始いたします。

繰り返しになりますが、かつてないほどの大変厳しい経済環境にある、このような時こそ建材・住宅設備業界が一つにまとまる必要があります。業界をあげた需要の喚起、そして、生活者が安心と喜びを感じてもらえるために、もっと生活者視点にたって活動する必要があると考えております。

そのためには、協会運営に直接関わる方だけでなく、経済産業省をはじめとする関係省庁の皆様、ご来賓の方々のご理解とご支援が不可欠でございます。

皆様方の倍旧のご支援・ご協力をお願い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。